

## 米国 リンゴの貯蔵量が減少

[FreshFruitPortal](#) 2025年1月14日

米国の最新のリンゴ貯蔵量に関する米国リンゴ協会のデータ(USApple Tracker)によると、2025年1月時点で貯蔵中のリンゴの総数は1億5,200万ブッシェルで、昨年1月の1億5,600万ブッシェルと比較して4%減少した。(米国リンゴ協会のデータでは1ブッシェル=42ポンド(約19.05kg))

リンゴの総貯蔵量は5年間の平均よりも11%多く、生鮮市場向けリンゴの貯蔵量は昨年の1月よりは4%少ないものの、それでも1月の5年平均より13%多くなっている。

貯蔵量の多い主な品種は、ガラが合計1,867万2,260ブッシェル、レッドデリシャスが1,604万5,947ブッシェル、グラニースミスが1,308万9,656ブッシェルで、ハニークリbsp、ふじ、コズミッククリbspが続いている。

また、同協会は加工用リンゴの貯蔵量を4,300万ブッシェルと報告しており、これは昨年比べて2%少なく、1月の5年平均よりも7%少ない。

ワシントン州はリンゴの貯蔵量が最も多く、通常大気の冷蔵貯蔵庫で合計2,259万5,579ブッシェルの生鮮市場向けリンゴと、581万2,824ブッシェルの加工用リンゴを貯蔵している。また、同州は合計9,474万8,740ブッシェルのリンゴをCA貯蔵庫で保管している。ワシントン州、ニューヨーク州、ミシガン州等、リンゴの生産量が上位の州すべてで、この期間の貯蔵量が減少したと報告されている。

## フィリピン TR4と天候の影響でバナナ輸出4位に転落

[FreshPlaza](#) 2025年1月15日

国連食糧農業機関(FAO)の報告によると、フィリピンは2024年に世界のバナナ輸出国として、第3位から第4位に転落した。この変化は、悪天候と病害の影響を受けて、バナナの出荷量が3%減少したことに起因している。この後退にもかかわらず、フィリピンはアジア最大のバナナ輸出国としての地位を維持した。

同国の2024年のバナナの輸出量は前年の235万トンから227万8千トン減少した。FAOは、フィリピンの主要なバナナ産地であるミンダナオ島の生産可能面積を大幅に減少させたバナナのフザリウム萎凋病熱帯レース4(TR4)の影響を強調した。フィリピンバナナ生産者・輸出業者協会は、TR4の蔓延により、当初の栽培面積8万9千ヘクタールのうち、生産を維持できたのはわずか5万1千ヘクタールであったと報告した。

バナナセクターの課題は、南シナ海の地政学的な緊張によってさらに悪化し、一部の輸出に影響を及ぼした。フィリピン農業食品会議所のダニーロ・ファウスト会長は、降雨、洪水、干ばつ、ハリケーン、高い投入コスト、物流の問題など、それ以外の課題を列挙した。同会長は、これらの課題に対処するための科学的解決策と改善された技術的アプローチの必要性を強調し、このセクターの回復に対する懸念を表明した。

真菌性病害であるTR4は、バナナ生産に重大な脅威をもたらし、世界のバナナ供給の大部分を占めるキャベンディッシュバナナに影響を及ぼしている。FAOは、悪天候や植物の病虫害が要因となって2024年の世界のバナナ取引が1%減少したと指摘している。

報告書はまた、いくつかの国での悪天候や熱帯暴風雨による供給量の減少とは対照的に、コロンビア、インド、ベトナムでは生産が増加したことについても言及している。TR4がフィリピンだけでなく、ベネズエラやペルーにも広がり、生産量の減少や病害予防の努力に伴う財政負担につながっていることが懸念材料として浮き彫りになっている。

出典: [Inquirer](#)